

【様式1】

第1学年 国語科 単元名「自分を見つめて」

『少年の日の思い出』(ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳)

1. 目標

- 人物や情景の描写に着目し、登場人物の心情を読み取ろうとしている。【関心・意欲・態度】
- 場面の展開や登場人物の描写に着目し、心情や内容を読み取ることができる。【読むこと】
- 文脈上の意味に注意し、多様な語句についての理解を深めることができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

2. 指導計画(7時間扱い)

見通す 取り組む 振り返る	①時	単元の目標を知り、学習の見通しをもつ。『少年の日の思い出』を通読し、話の筋を確認する。感想や疑問、気付いたことを書く。
	②時	初読の感想をもとに、グループで交流し、全体で解決したい課題を決定する。
	③時	「僕」とエーミールのちょうの収集の描写に線を引き、グループで図にまとめる。
	④時	人物像の描かれ方から「僕」のエーミールに対する心情を考える。コムラサキを見せた「僕」の心情を考える。
	⑤時	ちょうを盗み、壊してしまうまでの「僕」の心情の変化を心情曲線で表す。
	⑥時	エーミールに謝罪する場面の僕の心情を考える。
	⑦時	「僕」の最後の行動の意味について、ワールド・カフェ方式で交流をする。

←学び合いの例

3. 第⑦時について

○目標

- ・これまで読み取ってきた文章表現を根拠に自分の考えを持ち、交流して深めようとしている。【関心・意欲・態度】
- ・エーミールの思いや、ちょうへの思いから読み取ったことを関連付け「僕」の心情を考えることができる。【読むこと】

見通す 取り組む	活動①	これまでの学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 T：今日の課題は何でしょうか。 S：なぜ、「僕」はちょうを一つ一つ指で押しつぶしたのか。
	活動②	テーマについて、ワールド・カフェ形式の交流を行い、自分の考えを深める。 テーマ：なぜ「僕」はちょうを一つ一つ指で押しつぶしたのか。 テーマについて自分の考えをまとめ、交流を行う。 T：メモ用紙をみんなが書ける所に置いて、自分の考えたものを広げたり、つなげたりしてください。 <u>(グループ活動①)</u> S：罪を償いたいから。 S：ちょうを持っている資格がないから。 T：残っている人が、活動①を説明してください。 <u>(グループ活動②)</u> S：償いの気持ち。資格はないと言われたから。

S：気持ちを分かってもらえなかったから。

S：エーメールのちょうをつぶしてしまったから。償いの気持ちから。

活動③ グループの意見を1分間発表し、共有する。

S：悲しさ（エーメールに分かってもらえなくて）事件のきっかけだから見たくない。

S：謝罪、反省、後悔、償い。

S：分かってもらえない怒り。エーメールに軽蔑されたから。

活動④ 本時の学習をワークシートにまとめる。

交流で出てきたキーワードの中から二つ選び書く。（振り返り）

4. 学び合いの例について

【活動②】：ワールド・カフェ形式の交流の活用】

「他者と相互に関わること」の活動として、ワールド・カフェ方式の交流を行い、生徒自らが主体的に意見を交換し、様々な観点からの他者の考えを知ることにより、自分の考えを深めることを目指す。なお、ワールド・カフェ方式とは、メンバーの組み合わせを変えながら、小グループで話し合いを続ける交流である。

1. 活動方法

(1) プリントに書いてある1つめの番号に従って4人ごとのグループを作る。

(2) グループ活動①の話し合いを行う。

(3) プリントに書いてある2つめの番号に従って4人ごとのグループを作る。

(4) グループ活動②の話し合いを行う。

1名が、同じ場所（班）に留まり、グループ活動①の時にその班で出た意見を紹介する。

(5) グループごとに意見を1分間発表し、考えを共有する。

(6) 交流で出てきたキーワードの中から二つを選んで、振り返りとして書く。



2. 効果的な指導形態の工夫

グループごとの4人のメンバーは、話がしやすいメンバーとなるように配慮し、事前に決めておく。

3. 学び合いの活性化を図るための工夫

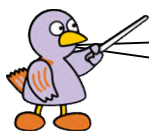
グループ活動②で、グループ活動①の意見を紹介することにより、話し合いを進めやすくする。活動のルールをはっきりと示し、自分のすることを明確にしておく。

<活動のルール>

- ・自分の意見は根拠を挙げて説明する。
- ・いろいろな意見をしっかりと聞き、他のグループの考えをたくさん持ち帰る。
- ・他の人の意見を否定したりふざけたりしない。
- ・メモをとる場合はキーワードで書き、線でつなげると書きやすい。

単元名 「自分を見つめて『少年の日の思い出』」

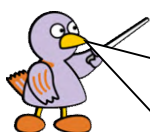
取組のワンポイントアドバイス



こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

「僕」の行動の理由は、複数あると考え、他のグループの考えを持ち寄ることで、考えを広げることができると思い、ワールド・カフェ方式という方法をとりました。この方式は、4人ごとのグループをつかって、まずは話し合います。そして最初のグループで話し合ったことを、次のグループに行って伝え合うという方式です。グループの席の真ん中には紙を置いておき、考えや疑問点などを自由に書くことができるようにしておきます。

ワールド・カフェ方式の交流活動を取り入れた学習を進めるため、まずは4人ごとのグループ編成にして、話がしやすいメンバーを組み合わせるように配慮しました。その結果、いろいろな考えを共有することができ、考えを広げることができました。



1単位時間の中でワールド・カフェ方式の交流を2ラウンド行いました。しかし、2回の交流活動は1単位時間に納めるのは厳しかったです。

「2単位時間で計画をする」「説明をもっと簡略する」など十分な時間をとる工夫が必要だと思いました。

広げた考えを個に戻して深めるための活動がなかったので、どうつなげていくかがこれからの課題でした。

また、教科書本文から離れてしまうことがないように掲示をしました。教科書を読解する授業ではなく、本文を読んだあとの自分の考えや感想の交流のほうが、適していたのではないかと思われました。

